【著書紹介】

「衣の昔・衣の暮らし」

潮田ひとみ

兵庫教育大学大学院学校教育研究科

「衣の昔・衣の暮らし」は，現在、本部会の副部会長である斉藤秀子先生が、呑山委佐子先生との共著で書かれたものです。平成 16 年 4 月から平成 17 年 9 月までの期間､介護専門職を対象とする月刊誌『おはよう２１』に連載された原稿をまとめられたとのことです。

内容は、衣服のもつ意味－概論から始まり、情報伝達手段としての衣服，平安時代の公家装束－「束帯」と「唐衣裳」、着物のルーツ「小袖」の成立と特徴、若者文化としての”浴衣”、現代和服の今－継承される和服文化、アジアの民族服－平面から立体へ、東南アジアの染色－ジャワ更紗の染色法と用途、日本における洋装化―明治から昭和時代初期、日本における洋装化－昭和時代初期の洋装成立の要因、冬がやってきた－暖かい服ってどんな服？、「袴」の昔と今、衣服の運動機能性と「衣服圧」、ファンデーションの歴史と現状、衣服で安全－身体を防護するための衣服、既製服が手元に届くまで、省エネルックからクールビズへ、高齢者に望まれる服，望まれない服の 18 章からなります。

特徴としては、各章のなかに、ワンポイントアドバイスがあり、例えば、足袋や名古屋帯といった和服を着用するときに用いる小物類についての解説が書かれています。卒業式の袴姿－7 つのポイントというコラムには、着物の裾線の位置や衣紋の抜き方が具体的に書かれています。このワンポイントアドバイスがあることによって、文章として書かれている「袴」が、「自分が着用する袴」として認識され、本に書かれた知識を活用・実践しようとする意識が高まってきます。

書かれている内容は、著者らが専門分野とする被服構成学や被服衛生学だけでなく、服飾史や染色といった幅広い範囲がたくさんの写真や図表を用いることによってわかりやすく示されています。また、平易な用語を用いることによって、とても読みやすく書かれています。

被服衛生学部会員としては、被服衛生学の内容だけに視点を向けがちですが、衣服は、衛生的な面だけが重視されて着用されるものではありません。衣の昔にはじまり、現在の衣の暮らしまでを、感性だけで論ずるのではなく、科学的な視点を持ち、総合的に俯瞰できる本は、なかなか見当たらず、その意味でとても有意義な書であるといえるでしょう。

新書版のため、通勤の行き帰りの友、あるいは、教科書というよりも、講義の副読本として、学生にも読ませたい本として､紹介したいと思います。

書名：衣の昔・衣の暮らし
著者：斉藤秀子，呑山委佐子
家政教育社，2012 年 3 月発行
ISBN978-4-7606-0380-0，定価：1000 円+税

＜連絡先＞
〒673-1494　加東市下久米 942-1
兵庫教育大大学院　潮田　ひとみ
電話：0795-44-2194　FAX：0795-44-2194
ｅメール： hitomiu@hyogo-u.ac.jp